

専門高校における産業界との連携事例等について

令和8年1月 文部科学省

高等学校教育改革促進基金の創設 ～N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクール※構想～

令和7年度補正予算額 2,955億円



※N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

「強い経済」を実現する総合経済対策（令和7年11月21日 閣議決定）抜粋

第2章「強い日本経済実現」に向けた具体的施策 第1節 生活の安全保障・物価高への対応（6）公教育の再生・教育無償化への対応（教育無償化への対応）

いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、政党間の合意に基づき、安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みを構築することを前提に、国から2025年度中に提示される「高校教育改革に関するグランドデザイン2040（仮称）」に沿った緊要性のある取組等について、都道府県に造成する基金等により先行的に支援する。

課題

- 2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、**地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足、いわゆる理系人材の不足が懸念**されるところであり、**産業イノベーション人材の育成が重要**。
- 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化（2040年には高校1年生が約36%減少）。現状でも約64%の市区町村において公立高校の立地が0又は1であることなどを踏まえ、**地理的アクセスを踏まえた多様な学びの確保が重要**。

① 産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業 令和7年度補正予算額 2,950億円 支援期間：3年程度

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた
高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及する。

アドバンスド・エッセンシャルワーカー等 育成支援

- 地域産業や社会・生活基盤を支える分野において、新技術を活用し、生産性の向上・高付加価値化の実現が求められている。
- 技術革新のスピードが加速する時代に適した**課題解決能力の獲得**に向け、**探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学び**を実現する。

理数系人材育成支援

- 未来成長分野においては、理系高等教育への進学者の割合の増加、高等教育での実践的な教育が求められている。
- 先進的な新たな知を生み出す力を育成するため、**理数的素養を身に付けつつ**、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた**文理融合の学び**を実現する。

多様な学習ニーズに対応した 教育機会の確保

- 少子化への対応においては、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、多様な人間関係の中で得られる学びを踏まえれば、**一定の生徒数の規模を確保した学びを提供することが必要**。
- 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、**地域の教育資源を活かした学びや遠隔授業を活用した学び**の提供を実現する。

学ぶ意欲のある高校生が、家庭の経済状況に左右されることなく、学習習慣の定着、学習時間の増加、学びへ向かう姿勢の確立ができるよう、放課後等を活用し、**学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組**、探究活動の深化による**多様な進路に向けた支援**を行う。

- ・ 学科・コースの再編、学校設定科目の新設
- ・ 域内の教育環境向上に貢献する取組（遠隔授業、教員研修拠点等）
- ・ 高等教育機関・地域・産業界と連携、外部人材の登用
- ・ グローバル人材育成に向けた留学の派遣・受入に係る環境構築

② 高等学校教育改革加速に係る伴走支援事業 令和7年度補正予算額 5億円

改革先導拠点の着実な実施にあたり、都道府県の進捗の確認・評価を行うとともに、類型ごとに、ノウハウの共有・専門家による支援を行う。

対象

- ①都道府県
- ②民間

補助率等

①10分の10

補助対象経費

- ①改革先導拠点の創出に係る経費（人件費、旅費、謝金、設備・施設整備費等）
- ②高校教育改革加速に係る伴走経費（人件費、旅費、謝金、備品・消耗品費等）

事業スキーム

文部科学省

基金造成経費を交付

都道府県

※都道府県事務費も措置

（担当：初等中等教育局参事官（高等学校担当）付）

現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

支援対象等

箇所数・補助上限額 ※定額補助

公立・私立の
高等学校等
(1,300校程度)

- 新規採択校 : 100校程度 × 1,000万円
- 継続校 : 200校程度 × 500万円 (重点類型の場合700万円) 【2年目】
1000校程度 × 300万円 (重点類型の場合500万円) 【3年目】

※必須要件に加えて、各類型ごとの取組を重点的に実施する学校を重点類型として補助上限額を加算(80校(半導体重点枠を含む))

採択校に求める具体の取組例 (基本類型・重点類型共通)

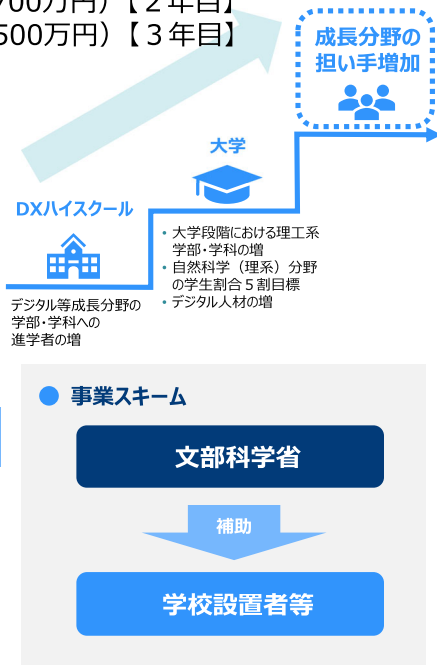
- 情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進(遠隔授業の活用を含む)
- 情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置
- デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- 高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- 地方の小規模校において従来開設されていない理数教科目(数学Ⅲ等)の遠隔授業による実施
- 専門高校において、デジタルを活用したスマート農業やインフラDX、医療・介護DX等に対応した高度な専門教科指導の実施、高大接続の強化

採択校に求める具体の取組例 (重点類型 グローバル型、特色化・魅力化型、プロフェッショナル型 (半導体重点枠を含む))

- グローバル型: 海外の連携校等への留学、外国人生徒の受入、外国語等による授業の実施、国内外の大学等と連携した取組の実施等
- 特色化・魅力化型: 文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換
- プロフェッショナル型: 産業界等と連携した最先端の職業人材育成の取組の実施

支援対象例

ICT機器整備(ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等)、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費等



(担当: 初等中等教育局参事官(高等学校担当) 付)

マイスター・ハイスクール (次世代地域産業人材育成刷新事業)

令和7年度予算額
(前年度予算額)

2億円
3億円

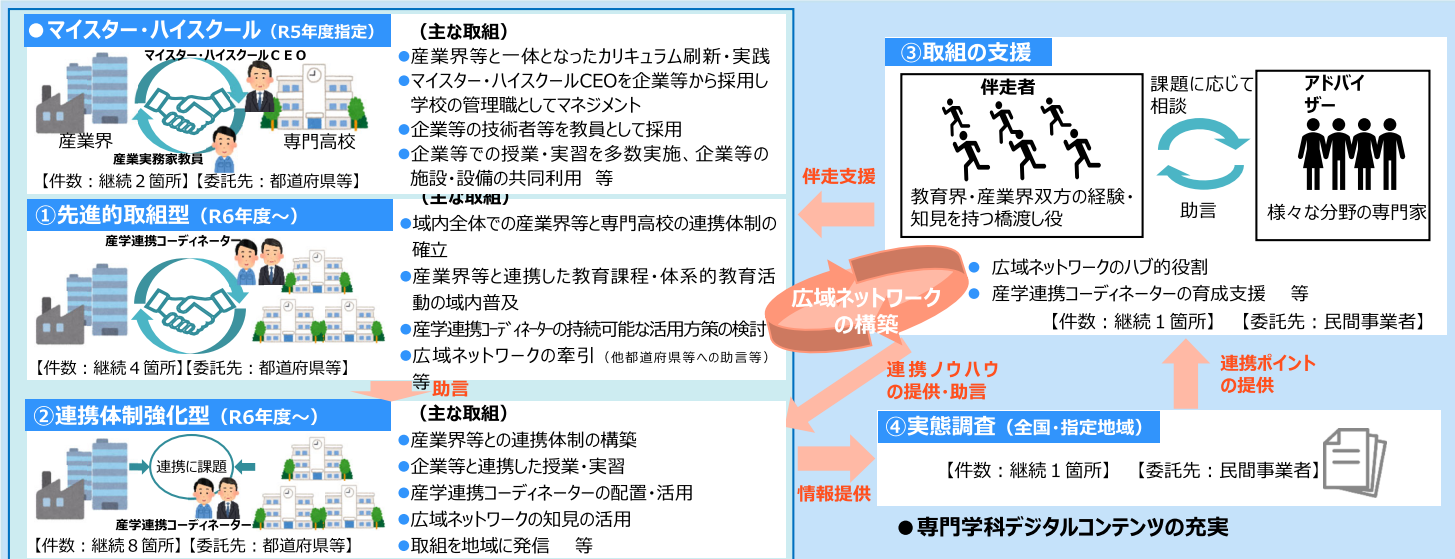
現状・課題

- 第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション(DX)、六次産業化等、産業構造・仕事の内容が急速かつ絶えず革新する中、専門高校では、産業構造の絶え間ない変化に即応した職業人材育成が急務。
- そのため、令和3年度より、産業界等と専門高校が一体となって職業人材育成を行うマイスター・ハイスクールを実施。
- 我が国の産業の発展のためには、**マイスター・ハイスクールの全国的な横展開が必須**。しかし、産業界等との連携に課題のある地域では導入が困難であることから、実践的な取組を通じた研究や全国実態調査等を通じて、連携体制の強化の方策について明らかにする必要。

事業内容

- 産業界等と一体となった先進的取組を行う都道府県等・専門高校が中核となり、産業界等と連携した人材育成の**広域ネットワークを牽引**
- 産業界等との**連携に課題のある地域が**、先進的取組を直接学びつつ、**連携体制の強化プロセスを実践研究**
- 民間事業者による**取組に応じた支援、広域ネットワーク内をつなぐネットワークハブ**
- 産業界等と専門高校の**連携段階ごとの課題及びその解決策**について調査し、実効性のある連携体制構築のポイントを整理

→ **地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人材育成エコシステムを確立**



(初等中等教育局参事官(高等学校担当) 付産業教育振興室)

彦根工業高等学校×滋賀県教育委員会×彦根市×彦根商工会議所

本格的に、企業の組織の一員として現場で働く

1 年次 学校設定科目「近江マイスター」 → 地域企業の先端技術やその専門家の働きを見学。

2 年次 学校設定科目「ブラッシュアップ実習」 → 地域企業や専門家から技術を学ぶ。

3 年次 学校設定科目「プログレス実習」 → 週 1 日、実際に企業で社内プロジェクトチームのメンバーとして働く。



取組による成果等

長期インターンシップやデュアルシステムの受入れは企業にとって負担があったが、現場からも「人工知能の活用など手探りの中、自分の大きな学びにつながった」「外部からの視点で業務改善に直接的に貢献」といった声があり、相互にとって学びのある取組となっている。

デュアルシステム受入れ企業

教員が最先端技術や情報に触れる機会が増え、生徒は実社会で学ぶことで、自ら考えて行動する力や挑戦する意欲が高まっている。
デュアルシステムで企業での働く体験が、学校での学びの意味や目的に繋がり、彼らの進路実現に寄与していると感じている。

産業実務家教員
(地元企業のエンジニア)

<企業版デュアルシステム>

・「お客さん」ではなく「社員」として扱われ、他のメンバーと協働して、実際の業務の中で提案を行ったり、フィードバックを受ける体験をしている。学校で学んだ知識・技術がどのように社会で使われているのかを理解し、さらにその技術を使うための姿勢や考え方を学習。

- 内容
- 【機械科】 企業課題解決の取組、3Dプリンタの製作 など
 - 【電気科】 彦根市広報のプロジェクションマッピングの取組 など
 - 【建築学科】 コンクリート等の強度試験・3Dスキャナ・ICT建機 など

「デュアルシステム」とは

- インターンシップよりも長期間の就業体験で、学校と企業が一緒になって生徒を育成する職業教育。
- 卒業後には当該企業に就職することもあり得る。

工業高校の理解を推進するための取組

新規HP「すごいぞ！専門高校」の開設

中学生の進路指導で活用できるウェブサイト



専門高校Instagramの開設

現役専門高校生を巻き込んだ魅力発信



2025年2月～7月
専門高校生が作成した
魅力発信動画のコンテストを実施

応募総数 **動画400本!**

優秀な動画には、
文部科学大臣賞を授与
(2025年10月
全国産業教育フェア福島大会で
発表)



すごいぞ！専門高校HP：
https://www.mext.go.jp/sugoizo_senmonkoukou/

Instagramアカウント：
https://www.instagram.com/mext_sangyo?igsh=MXdidHdtEnIzcGtrNg%3D%3D

国土交通省との連携

「建設業における若年者入職促進に関する取組の周知について」

事務連絡
令和7年12月23日

各都道府県・指定都市教育委員会指導専務主管課
各都道府県私立学校主管課 御中
各国立大学法人附属学校事務主管課

文部科学省初等中等教育局
参事官（高等学校担当）付
産業教育振興室

建設業における若年者入職促進に関する取組の周知について（依頼）

平素より産業教育の振興に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。
この度、国土交通省より、高校生等の若年者の建設業に対する理解や入職促進を図ることを目的として現場見学会やインターンシップ等の取組をとりまとめたことと、別添のとおり周知依頼がありましたのでお知らせします。
ついでに、都道府県教育委員会においては、城内の高等学校を設置する市町村教育委員会に対し、都道府県私立学校主管課においては、所轄の学校法人に対し、周知いただきますようお願いいたします。
なお、学校における働き方改革の観点から、高等学校への周知については、対象の学校を限定したり、他の条件とまとめた周知やクラウドを活用した文書の共有を行うなど、学校の事務負担軽減にご配慮いただくようお願いいたします。
また、本取組の御不明点等については、別添資料に記載の「連絡先」へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

初等中等教育局参事官（高等学校担当）付
産業教育振興室産業教育係（田中、藤井、鴨谷）
TEL：03-5253-4111（内線2384）

厚生労働省との連携

「建設業若年者理解・定着促進事業（つなぐ化事業）の周知について」

事務連絡
令和7年5月30日

各都道府県・指定都市教育委員会指導専務主管課
各都道府県私立学校主管課 御中
各国立大学法人附属学校事務主管課

文部科学省初等中等教育局
参事官（高等学校担当）付
産業教育振興室

建設業若年者理解・定着促進事業（つなぐ化事業）の周知について（依頼）

平素より産業教育の振興に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。
この度、厚生労働省職業安定局建設・港湾対策室より、別添のとおり、若年者の建設業に対する理解や入職促進を図ることを目的として、昨年度に引き続き、意見交換会や出前授業などを通して高等学校の生徒・教師等と建設業界がつながる機会を設ける事業（建設業若年者理解・定着促進事業（「つなぐ化」事業））を実施することから、本事業の周知及び参画の協力依頼がありました。
つきましては、本事業について御了解いただくとともに、都道府県教育委員会においては、所管の学校及び城内の高等学校を設置する市町村教育委員会に対し、指定都市教育委員会においては、所管の学校に対し、都道府県私立学校主管課においては、所轄の学校及び学校法人に対し、附属学校を置く各国立大学法人附属学校事務主管課においては、その管下の学校に対し、このことについて周知いただきますようお願いいたします。周知に際しては、リーフレット等もあわせてご活用ください。
なお、学校における働き方改革の観点から周知の方法については、当該事業の活用を検討している学校に限定するなど、各教育委員会において、適切にご判断いただくようお願いいたします。
事業への参加を希望する場合は下記ホームページへアクセスいただき、御不明な点などございましたら、厚生労働省職業安定局雇用開発企画課建設・港湾対策室建設労働係へ直接お問い合わせください。

「つなぐ化」事業 ホームページ（<https://tsunaguka.mhlw.go.jp/>）

【本件担当】
初等中等教育局参事官（高等学校担当）付
産業教育振興室産業教育係 03-5253-4111（内線2384）

参考資料

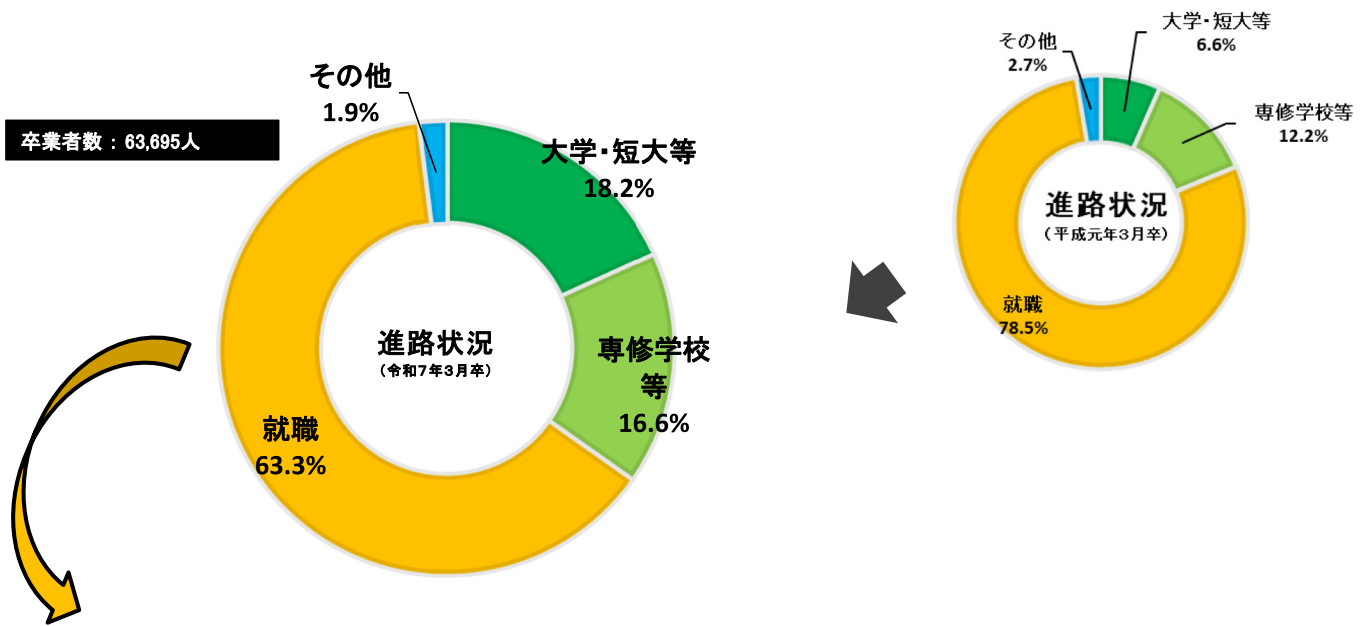
高等学校学科別生徒数・学校数

区 分		生徒数(人)	比率 (%)	当該学科を置く学校数(延べ数)	単独学科学校数
合 計		2,865,463		6,524	3,403
普 通 科		2,123,778	74.1	3,693	2,518
職 業 学 科 (専 門 高 校)	小 計	482,854	16.9	1,889	553
	農 業	66,199	2.3	292	119
	工 業	197,538	6.9	512	247
	商 業	157,989	5.5	570	154
	水 産	7,003	0.2	42	21
	家 庭	33,929	1.2	256	4
	看 護	10,753	0.4	95	5
	情 報	3,484	0.1	27	1
	福 祉	5,959	0.2	95	2
その他専門学科		104,352	3.6	561	49
総 合 学 科		154,479	5.4	381	283

- ※ 全日制・定時制のみの統計である(通信制は含まれない)。
- ※ 「当該学科を置く学校数」欄は、複数学科を置く学校について、それぞれの学科に計上した延べ数である。
- ※ 全国の全日制・定時制の高等学校のうち、職業教育を主とする学科を設置する高等学校は1,440校である。
- ※ 「その他の専門学科」には、理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係等の学科がある。
- ※ 総合学科とは普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科である。

(出典)令和7年度学校基本調査

工業高校等の進路状況



<就職者内訳>

(%)

	農業 林業	漁業	鉱業 採石業 砂利採取 業	建設業	製造業	電気 ガス 熱供給 水道業	情報通信 業 運輸業 郵便業	卸売業 小売業 宿泊業 飲食 サービス 業	金融業 保険業	不動産業 物品賃貸 業	教育 学習支援 業	医療 福祉	各種 サービス 業	公務	その他
割合	0.1	0.1	0.2	18.1	52.8	3.4	5.8	5.1	0.2	0.5	0.1	0.3	8.6	4.1	0.5

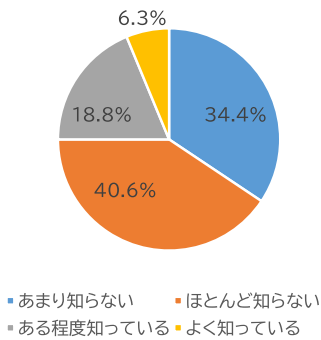
(出典)文部科学省「学校基本調査」

令和7年度 県立高校生はたらく魅力実感講座 アンケート結果

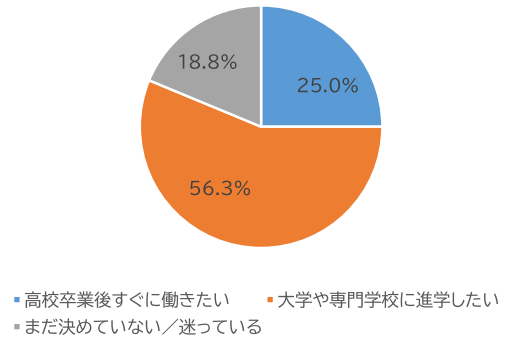
- (1) 実施日
令和7年8月19日（火）
- (2) 場所
埼玉県建産連研修センター（説明）・荒川第二調節池工事現場（見学）
- (3) 参加者
滑川総合高等学校 ラグビー部生徒全学年32名 同保護者2名 同顧問教諭2名
- (4) アンケート対象
生徒32名

事前質問

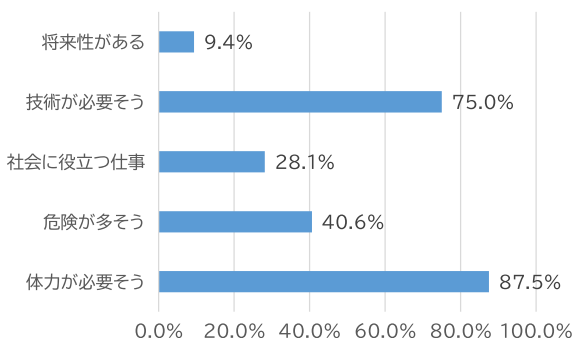
(1) 建設業界について、どの程度知っていますか？



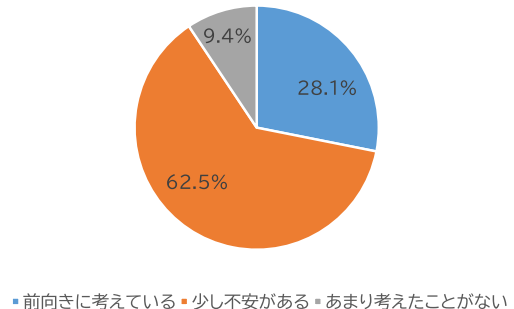
(3) 将来の進路について



(2) 建設業界に対して、どんなイメージを持っていますか？
(複数選択可)



(4) 高卒で働くことについて、どんな印象を持っていますか？



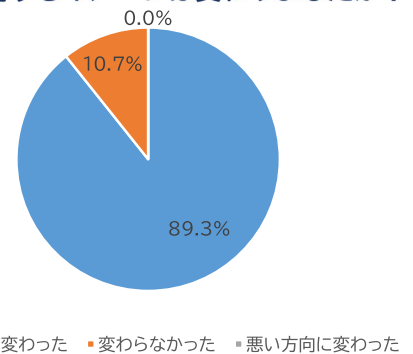
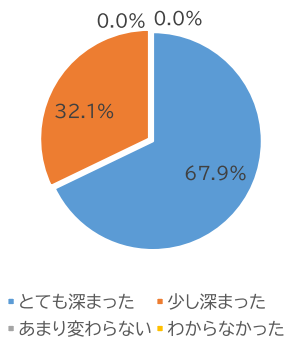
事前質問

(5) 今日の講座で、どんなことを知りたいですか？(自由記述) ※主なものを抜粋

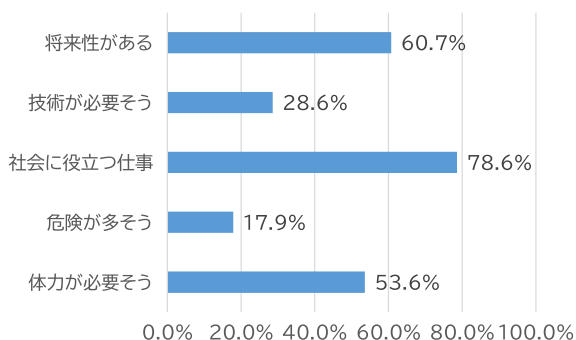
- ア 建設業の内容に関わるもの
 - ・建設業界をあまり知らないのでどんな仕事か知りたい
 - ・建設業の具体的な職務内容
 - ・働くために必要な技術を学びたいです
 - ・建設する為にどんな工程があるのか
 - ・その職業に関する必要な知識や具体的な仕事内容
 - ・私たちの生活している建物がどのように作られているか
- イ 建設業界の位置づけ等
 - ・社会的にどのような役割や地位があるのか、またどのような種類があるのか
 - ・建設業は何のためにあるのか詳しく知りたい
 - ・建設業がどのように社会に役立っているのか
 - ・建設業界について詳しく知りたい
 - ・建設業のおもしろさ
 - ・建設業の大変さ
 - ・建設業界の大変さや人材不足により何が問題になっているのか
- ウ 給与面
 - ・給料について
- エ その他
 - ・高卒で働くメリット、建設についての流れ
 - ・人材不足の解決
 - ・働く意味、素晴らしさ、大変さ

事後質問

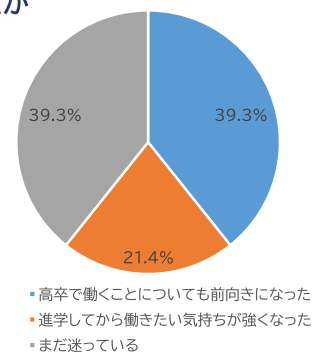
(1) 今日の見学を通じて、建設業界への理解は深まりましたか？ (3) 建設業界に対するイメージは変わりましたか？



(2) 建設業界に対して、どんなイメージを持っていますか？ (複数選択可)



(5) 将来の進路について、今日の体験を通じて気持ちに変化はありましたか



事後質問

(4) 建設業界に対して、「良い方向に変わった」と答えた方は、どのように変わったか記述してください。

- ・体力をあまり使わなさそう
- ・将来性があり、希望が見えるというお話を聞いていい方向に考えが変わりました
- ・見方が変わりました
- ・建設業は人が全部動いてやると思っていたけど、ドローンや機械化など進化していると感じたから
- ・現場の人の話などを聞いて、業界のことを説明してもらい、理解が深まったから
- ・汚いなどの悪いイメージが変わった
- ・日本の未来がとても明るくなった！
- ・みんなでまとめられる
- ・将来性がありとても社会の役に立つ仕事
- ・大変な環境で作業している訳ではなく、ITやドローン等様々な技術を活用していることが分かり、より快適に作業できる環境に置かれているとわかった
- ・建設業界が進化したお陰で災害時や日常生活で不自由なく生活できていることがいいと思った
- ・社会からの悪いイメージをなくすために頑張っていることが分かったから
- ・将来性もあり給料面もいいところ
- ・どんな人でも建設業に携わることができてとても働きやすそうだった
- ・ドローンなどでスマートにできていた
- ・働いている環境などが時代に合わせて変わっていて、最先端な技術も取り込んでいてすごいなと思った
- ・体力や技術が必要そうな仕事だったけど、情報の発展で誰でも簡単に出来るようになったため関心を持った
- ・思っていたよりも雰囲気や仕事が良いものだとわかった
- ・やりがいのある仕事だと思いました
- ・キツくて辛いだけだと思っていたが、ICT施工など最新技術を活用し負担を減らしていて、建設業界のイメージが変わった
- ・人への負担が減っている
- ・安定している仕事だと感じた
- ・近未来で最新だと思った

事後質問

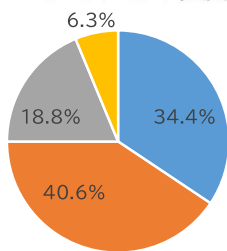
(6) 今日の講座で印象に残ったことは何ですか？（自由記述）

- ・ドローン
- ・旧3Kが新3Kにかわってとてもいい印象が着きました
- ・MRのゴーグル
- ・土木業や建設業も時代とともに進化していて働きやすい環境になっていると知ることができた
- ・ドローンを現場で使ってるってこと
- ・色々な技術が発達しているのだと感じた
- ・技術が進んでいてすごいとおもった
- ・建造物を作るときの過酷さが知ることができた
- ・行動力とかつきそう
- ・建設業界は日本の社会のためにとても役立つ仕事でありとても大切な仕事であることが分かりました
- ・チームビルディング、お金についてのこと
- ・ドローンを使って指定した所を勝手に掘ってくれる技術
- ・MR技術を使って頑張っていることに感心した。
- ・ドローン等のAI技術の発展
- ・建設業で使う道具だったり便利でイメージと違って楽しそうだった
- ・丁張がなくなったこと
- ・ドローンなどを活用した現場に感心した
- ・手で地形を測るんじゃなくて、自動で測れるようになっていたこと
- ・人の手だけでなくドローンやAIなどを活用した取り組み
- ・ドローンの技術力がすごく印象に残りました。
- ・建設現場でのICT施工の体験や実際に見れて滅多にできない経験が出来たこと
- ・今の工業会では機械を使用して人への負担が減ってきている
- ・とてもわかりやすい説明でUDKに入社したくなった
- ・ドローンやVR

質問 前後比較

事前質問

(1) 建設業界について、どの程度知っていますか？



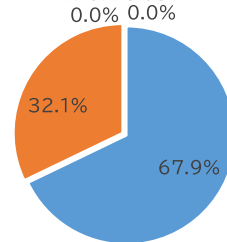
■あまり知らない ■ほとんど知らない
■ある程度知っている ■よく知っている

あまり知らない⇒とても深まった
33.5ポイント増



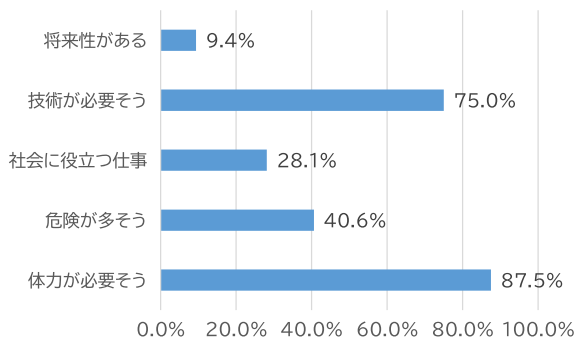
事後質問

(1) 今日の見学を通じて、建設業界への理解は深まりましたか？

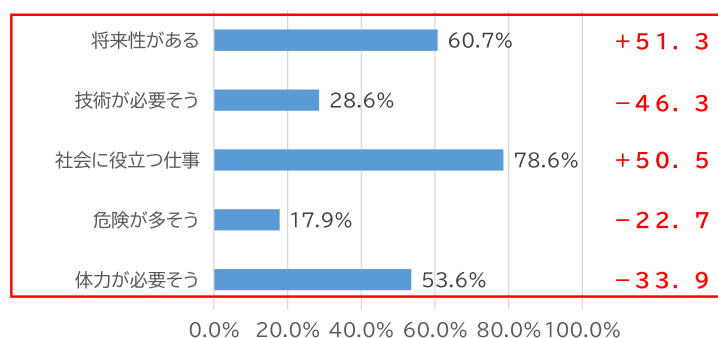


■とても深まった ■少し深まった
■あまり変わらない ■わからなかった

(2) 建設業界に対して、どんなイメージを持っていますか？
(複数選択可)



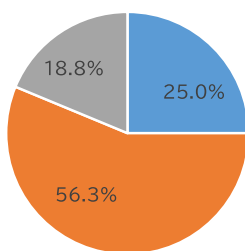
(2) 建設業界に対して、どんなイメージを持っていますか？
(複数選択可)



質問 前後比較

事前質問

(3) 将来の進路について

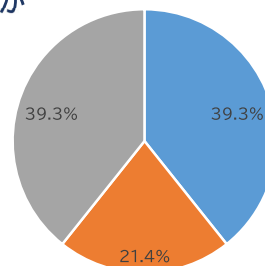


■高校卒業後すぐに働きたい ■大学や専門学校に進学したい
■まだ決めていない/迷っている



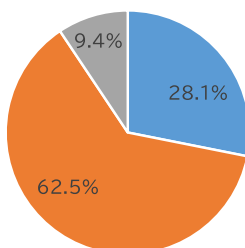
事後質問

(5) 将来の進路について、今日の体験を通じて気持ちに変化はありましたか



■高卒で働くことについても前向きになった
■進学してから働きたい気持ちが強くなった
■まだ迷っている

(4) 高卒で働くことについて、どんな印象を持っていますか？



■前向きに考えている ■少し不安がある ■あまり考えたことがない

玉名工業高等学校保護者様向け現場見学会アンケート集計結果

1.性別を教えてください。

1.男性 2.女性

1の集計結果

1	2	合計
3	2	5

2.年齢を教えてください。

1.10代 2.20代 3.30代 4.40代 5.50代 6.60代以上

2の集計結果

1	2	3	4	5	6	合計
0	0	0	3	2	0	5

3.お住まいの地域を教えてください。

1.玉名市 2.和水町 3.長洲町 4.南関町 5.玉東町 6.その他()

3の集計結果

1	2	3	4	5	6	合計
1	1	1	0	2	0	5

4.お客様の現在の志望を教えてください。

1.大学進学 2.就職(職種:) 3.公務員志望 4.その他()

4の集計結果

1	2	3	4	合計
0	5	0	0	5

職種(土木系、測量会社、土木)

5.本日の事業で玉名地域への就職についてどのように思われましたか。

1.とても前向きになれた 2.前向きになれた 3.あまり変わらない
4.あまり前向きにはなれない 5.前向きにはなれなかった 6.その他()

5の集計結果

1	2	3	4	5	6	合計
3	2	1	0	0	0	5

6.本日の事業でどのようなことに興味を持たれましたか。(複数回答可)

1.座学での建設業におけるプレゼン 2.現場の見学 3.食事交流会 4.その他

6の集計結果

1	2	3	4	合計
5	1	2	0	8

7.お子様と進路についてお話しする機会はありますか。

1.定期的に話している 2.今後話していきたい 3.進路は決めてある
4.あまり話さない 5.子供の判断に任せている

7の集計結果

1	2	3	4	5	合計
2	2	0	1	0	5

8.今後どのような事業に参加してみたいですか。(複数回答可)

1.今日のような事業 2.子供と参加できる事業 3.企業就職イベント
4.現場見学会 5.企業社員との交流 6.その他()

8の集計結果

1	2	3	4	5	6	合計
2	4	1	2	1	0	9

自由記述

- ・就職先を決めるのは子供だが、親が職種へのイメージを持つことはとても大切であると感じました。
- ・プレゼン2本共に大変興味深く、初めて知ることが多く、食を具体的に知ることができたことはとても大きいです。
- ・社員の方とお話しできたことが安心感・親近感が生まれてよかったです。
- ・子どもと一緒に参加することで、同じイメージを共有でき、会話が生まれ、就職についてより深く話せると思いました。
- ・高校1・2年の早い段階での開催をすることで意識を高め、学業への取り組み方も変わるのではないかと思いました。
- ・保護者が理解できるチャンスをいただけたことに感謝します。
- ・子どもの進路決定の際に現場の方々の体験談を含めて参考になる事が出来ました。
- ・開催時期を早めていただきたいです。